(一) 第731号　昭和27年9月25日 第三種郵便物認可　THE MIIKE　(毎月1・16日発行)　昭和38年(1963)5月16日　(木)

発行所
三池炭鉱労働組合
大牟田市不知火町2
電話 3033番 8100
編集兼発行人 澁田紀生

市議候補全員當選

この力で合理化粉砕

第三次合理化を!!
組合ぶつつぶしの責任追及撤回を!!
地域共斗の推進を!!
全組合員・家族が団結してたたかい抜こう。

統一地方選挙の最後をかざる市長、市議選は、二名の県議候補のそれぞれ最高点当選のあとを受けて四月三十日、投票が行われた。大牟田では八年間われわれが築き上げた革新市政を、再び三井に奉仕する市政に逆もどりさせようとする三井独占が、金力権力のすべてを動員して、ついに、大番頭円仏氏を市長の座に押上げた。われわれは斗争後初の地方選挙であったが、組織分裂の痛手にもめげず市議候補十名全員当選、村議一名計十一名の政治局員をかちとり、三池労組の団結と斗いの底力を発揮した。これは、組合員、家族の全員が火の玉となって斗った結果得られた尊い成果であり全国の仂く仲間の期待に十分答えたものだといえましょう。われわれは、ここに結集した力で第三次合理化をはね返す斗いに歩を進めよう。

一人が3・5票

三池労組員の得票率

十八名の大地評公認、推せん、市議候補の内、十四名が当選した市長市議選の結果は次の通り。

【市長得票】
当選　円仏禾吉　五五、一七二
　　坪沼寿義　四六、三四一
【市議得票】
当選　芳久（共新）二、九九三
当原田明吉（無現）二、四六六
当中川末義（社現）二、四六四
当湯村誠男（社新）二、一五九
当田中貞夫（社新）一、九四六
当大蔵徳男（無現）二、〇〇七
当長谷川為美（社現）一、九三九
当奔永栄吉（社現）一、八八五
当東山岩男（無現）一、八二八
当蓮尾信治郎（社現）一、八二三
当月足康則（社現）一、七九八
当草野義臣（無新）一、七二九
当谷山勇（無現）一、六六四
当猿渡香（無新）一、六三二
当山本勇太郎（社現）一、六〇四
次堀円治（社現）一、四八八
榎下常雄（無新）一、四三七
末藤正治（無新）一、二三二
山崎末光（社現）一、一一六
森田収蔵（共現）一、〇四七
永江京子（共新）一、〇三三

この結果、市会内部での会派は次のようになった。

革新クラブ	十四名
民主クラブ	十名
三交クラブ	七名
刷新クラブ	五名
公政連	三名
共産党	一名

【荒尾市議】
当坂本敏雄（社現）一、一七六
当浦濱眞光（社現）一、一六二
当益田武利（社現）九七六
当豊塚正士（社現）九〇三
当浦正武（社現）九〇〇
当小森隆一（社現）八八八
当内田政友（社新）八四九
当福川決郎（社現）七九六
【山川村議】
当江崎次郎（無新）三五八

坂口芳澄氏（高田町）はおしくも次点。なお、三池労組公認候補者の得票総数は約一、五三〇にのぼりこれは組合員一人当り、三・五票を獲得した割合になる。

坪沼さん海外視察

坪沼さんは十三日、中国及び東南アジア貿易使節団の副団長として、海外旅行に出発された。

約一カ月間、中国、東南アジアを視察され、帰国後は大牟田に居住をかまえられる。

核武装を国内から追い出そう

われわれの目と鼻の板付に、アメリカ空軍の花形F105がついに七五機も進駐してくる。F105には核弾頭（水爆）がとりつけられ「人類破滅の戦火」の根源となるため、国民はこぞって反対している。

ついこのほど、原子力潜水艦の日本寄港に、われわれは反対したその矢先きに、それは危険な「沈没」をとげ、人々の恐怖を深めたばかりではないか。

日本国民のねがいは、まさに「戦争反対」に集中し、原爆の実験台となった「悲惨」を永久に忘れることはないからだ。

多くの国民のねがいに、池田内閣は耳をふさぎ、あくまで一にぎりの独占資本家ともとの一身同体ぶりを発揮し、アメリカと結び資本主義体制維持にきゅうきゅうとしている。

かれらは、国民の心からのねがいをふみにじって、はばからない。

最高裁の労働運動弾圧反対

人々の怒りを一つの炎にまで

主張

三月一五日、最高裁第二小法廷は池田・河村・奥野・山田・草鹿の五裁判官の名により、労仂運動にたいする「刑事免責適用」が、憲法・労組法・刑法・公労法・ILOなどで明らかであり、低賃金・長時間労仂・民主主義侵害の最たるものであるとの一あい且つ下級裁判所で「無罪」の判決があるのにかかわらず、口頭弁論も開かず「刑事免責の適用はない」と弾圧した。

われわれは、昭和三年三月一五日の大弾圧（社会主義者と労仂組合指導者の大量投獄）という三五年前の同月同日のまわり合わせを想起せざるを得ない。

三五年前の弾圧は、第二次大戦のきっかけとなったことを、「戦争反対」に集中し、原爆の実験台となった「悲惨」を永久に忘れることはないからである。

官公労の仲間にたいする「スト権はく奪」こそが憲法違反であり、低賃金・長時間労仂・民主主義侵害の最たるものであるのに、これは恥しらずにもはなはだしい池田内閣の暴力的な体制のあらわれの一つである。

独占資本は、労仂者の抵抗を根こそぎにしようとたくらんでいる。

第三次合理化に断固たる抵抗を

いまこそ、すべての国民は、「三池労仂者の暴力ストエ云々」が全くいわれなき資本のデマであることに気づいている。

ことほど左様に、石炭資本、とくに三井鉱山の「無能と無責任」とその「暴力的合理化」の実態が明らかにされたからである。

三池炭鉱は、就労後すでに三八名もの殉坑者を出し、野ばんきわまる差別と切り崩しに狂奔し、いままた「クビ切り・賃下げ・組合活動禁圧」を強行しようとしていることに非難が高まることは当然であろう。

人間解放の真の抵抗を!!

すべての国民が求めてやまない「平和」と真実な人間解放、すなわち本物の民主主義確立のために、まず三池労仂者は、いかなる困難にもくじけぬ抵抗の決意を再確立しよう。

三池労仂者の抵抗斗争の真の意義を、国民的視野に拡大する体制は、仲間の次の短歌にすでにしめされている。

火柱となる日もあらむ　苦しみの　ちさき炎も　共につらねて

（三川・上田鉄男）

今日から皆さんの先頭に立ち斗います

坪沼寿義

われわれと共に斗った坪沼さんは去る一日夜の「統一地方選挙完斗式」で次のようなあいさつを行い決意の表明を行った。

「みなさんから寄せられたあたたかいご支援、ご協力に心からお礼を申しあげ、感銘深い斗いを反省し、同時に私の決意を表明したいと思います。

私は四年後、かならず今回のせつじょくをとげ、勝利を皆さんと共に勝ちとる決意です。そのためには、もっと身近かに、ねばり強く大牟田の各方面の人々と話し合いをもち、共に三井独占の支配をハネ返すたたかいに粉骨しなければならないと思います。

したがって私は、立候補当時の約束どおり、今日ただ今より大牟田市に拠点を設け、仂らくすべての仲間たちの先頭にたち、これからの四年間をたたかいぬきます。

私は「かん難辛苦を経て人はおのれの何たるかを知る」というマリー・アントワネットの言葉を想起し、今後皆さんに加えられるであろう敵の攻撃に対して、みなさんの仲間の一人として固く団結し抵抗斗争のスクラムに加えさせていただきます。

四年後のたたかいと、その前にある衆議院選と参議院選とを共に勝ちぬくため、さらに頑張ります」

市民のための市政を、

荒尾市社会党議員団会長
福川次郎

全員が上位で当選できた今回の選挙は、第一に三池斗争に対する市民の人々の理解が深まったことのあらわれであり、第二に、農村部の強い支持があったこと即ち、三池出身の議員が農村に積極的に接触していたことが不十分ながら実を結びはじめたことのあらわれであると思います。

私たちは市民各階層が三池斗争によせられた気持を十分に考え、長期抵抗路線に自信を深めると同時に、今後も積極的に接触を深めてゆきたいと思っています。

私たちの斗う方針は、

一、総花的、放漫財政に陥りやすい保守市政を継続した財政、市民にカタヨリしない市政にすることを要求する。

二、行政末端にいたるまで人事が市長の私兵化し、市民のひんしゅくを買っているのでその是正を要求する。

三、民主教育の推進

四、失反、住宅、道路、上下水道環境衛生など、住民生活に必要な行政水準の向上に努める。

このような方針のもと、地校協を中心として議員団と市民の接触を深め、住民と市政を直結させるために、住民の要求を集約し、予算要求への斗いに発展させる。

このような斗いを通じて、一年十カ月後の市長選で勝利し、明るい市政の実現につとめる。

地域活動の強化を

大牟田市議
蓮尾信治郎

「階級連帯を強化して斗う」ということが不十分であった結果が議会で過半数を割り、市長選挙でも破れた原因であると思います。

このことを自己批判して、今後四カ年間の斗争の展望と実践の課題を明らかにしたいと思います。

まず、三井に奉仕する市政の実体を、一つ一つの議案の中から徹底的にばくろし、その背景をあきらかにしてゆきたい。

第二に、この事実を労仂者、市民に宣伝する作業を強化してゆくため集会や抗議行動などを行ないたとえ、市役所前広場が使用禁止になされようとも、あくまでも市民の使用する権利を主張し、これをたたかいとってゆく。

第三に、真の地方自治確立の基盤は、議会内部や、組合の机の上でできるのではなく、労仂者を中心とした地域活動が確立されねばならないと思います。居住区における、労仂者、農民、市民の統一のたかまりと発展こそ、円仏市政打倒のエネルギーになるし、反合理化斗争のエネルギーになると思います。またこのことは次の機会に坪沼市政を実現し、議会で過半数を獲得すること、即ち労仂者が自治体権力をにぎるエネルギーの根源になると思います。

このような観点から、あくまでも、社会主義運動の戦略と結合した議会活動として、今後四年間を斗ってゆきたいと思っています。